

足原のぞみ苑 デイサービスセンター
令和3年度 事業報告

1 概況報告

利用者の状況等

- ① 平均年齢 90.4 歳
- ② 平均要介護度 2.2

今年度の稼働率は 56.4%となっており、前年度は 53.7%だったが、徐々に回復傾向にある。また、平均利用者数は 22.6 人となっており、目標の 25 人には達成できていない状況である。要因としては、長期入院や入所によりほぼ毎日利用されていた利用者が利用終了となったことが大きなマイナス要因である。しかし、入所による終了者も見越したうえで難しいケースでも可能な限り受け入れをして新規利用者 22 名としっかり獲得できたことは今年度の業績につなげることができた。

2 事業報告

① 自立支援

(取り組み)

- ・コロナウイルス感染症の影響でレクリエーションも選別されているが、今年も外出をなるべく控え、農園に力を入れている。

【評価】

- ・農作業を通して、目的を持った活動支援につなげることが出来た。新たな楽しみと刺激になる取り組みを継続していきたい。

② 健康管理

(取り組み)

- ・感染予防策としては、朝の送迎時、到着時、午後からも検温を行い体調不良者の早期発見に努めた。
- ・医療行為重視のカンファレンスでは看護職員も同席することで、医療職としての対応や考えを伝え、他職種との情報共有を図った。

【評価】

- ・体調不良等の早期発見を徹底し、職員・利用者共にコロナウイルス感染症の罹患者の発生はなかった。今後も予防策には注視し様々な改善策に努めていく。

③ 機能訓練

(取り組み)

- ・今年度より ADL 維持加算を加算算定する予定だったが、算定要件を満たすことができず、算定することが出来なかった。
- ・利用者の状態に応じた、日常生活に有効な能力を発揮できるような訓練内容とした。

【評価】

- ・ADL 維持加算については、来年度に加算取得できるように取り組んでいく。
- ・利用者本人の在りたい姿に着目し、訓練だけにとらわれず、生活実現に向かう視点を持つことが出来た。

④ 職員教育

(取り組み)

- ・職員個々の専門性を高める為に介護福祉士等の資格取得を推進した。
- ・新規採用職員に対し、指導職員を配置し育成計画を立て、定期的に指導者の助言を行うことで、職員教育の充実を図った。

【評価】

- ・現在、介護職員の全員が介護福祉士の有資格者となり、それに伴い次年度はサービス提供体制加算（Ⅰ）の加算取得できる予定。
- ・育成計画を立て具体的に目標を設定したことで、指導職員が目標達成までの手段や手順を整理することが出来た。

⑤ 地域活動

(取り組み)

- ・安全パトロールやまち美化活動はコロナウイルス感染症の感染率の状況により徐々に参加することが出来ている。市民センター主催の文化祭はデイサービスで一日を通した活動紹介（写真掲示）を行った。

【評価】

- ・コロナウイルス感染症により、地域の方と交流する機会は少なかったが、コロナ禍でも保育園や学童に励ましの手紙を送ったり、また保育園からビデオレターが届いたりと違った方法で繋がることが出来た。

⑥ 家族交流

(取り組み)

- ・現在、コロナウイルス感染症対策により行事を通してご家族と交流する事が出来ていない。
- ・送迎時にはご家族と少しでも話をし、情報の共有や介護の悩み事を聞き一緒に考える姿勢を示す事で良好な関係が築けるよう努力した。

【評価】

- ・コロナウイルス感染症対策により、現在ご家族と交流する機会が少ないが、月に一

度発行している新聞や手紙などを活用し、当苑での取り組みも分かりやすく伝えていく。

- ・送迎時や連絡帳を通じ情報交換をしながら、ご家族の希望を受け止め、信頼関係を築き、安心してサービスを利用して頂けた。

⑦ 職場環境

(取り組み)

- ・今年度はタブレット端末を活用した記録管理が定着し、記録物の削減に繋がった。
- ・年5日の年次有給休暇の取得や長時間労働をなくす為に、苑内研修などは時間が確保できる限り、工夫して就業時間内に実施した。

【評価】

- ・効果の高い記録システムを構築する事で業務効率を図り、職員の負担軽減に繋がった。
- ・今後も職員が仕事と生活の両立を実現できる様、労働条件の改善に努めていく。

⑧ 事業目標

- ・長期入院やコロナ禍による利用控えの利用者へ、電話連絡を行い状況確認する事でもう一度デイサービスを利用したいという意欲の向上を図った。
- ・利用キャンセル減少の工夫として、振り替え利用の提案や柔軟な利用時間の提案を行った。
- ・体験利用の際は、利用者や家族のニーズを早期に把握し、職員に周知した事で満足度を上げることができ、新規利用の獲得に努めた。